

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

「教室不足」「教員不足」解消に向けて 抜本的に支援学校新校整備を

看護師の定数外配置、老朽化した校舎・施設の改修、駅のホーム柵設置などを訴え

大障教課別交渉

(支援教育課・施設財務課・保健体育課)

2月6日、大障教は支援教育課・施設財務課・保健体育課との課別交渉を実施しました。
交渉には9分會16人が参加し、支援学校の新校整備について、トイレや教室などの施設設備の改修、看護師の定数外配置と待遇改善、駅のホーム柵設置を鉄道会社に働きかけることなどを求めました。
交渉での主なやりとりを紹介します。

トイレ、教室などの施設改修、 設備修繕予算の増額、「教室不足」の解消を



あいさつする
荒谷書記長

光陽支援学校分会からは、複数の児童生徒用トイレ設備が古く使いにくい実態を訴え、ベッドなどの設備の改善を求めました。また教職員トイレの増設や手洗い設備の改善を求めました。
施設財務課は、「学校の予算でまかなえないところは別途配当する。相談してほしい」と回答しました。

箕面支援分会からは、



光陽支援分会
佐々木さん

「教室不足」により転用が繰り返され、教室内や廊下が車いすや医療的ケアの機器等で狭くなり支障があること、さらに老朽化した設備の危険な実態を訴え、改善を求めました。施設財務課は、「危険な状態にある個所については、学校と調整して対応したい」と回答しました。

看護師の賃金や待遇改善、定数外配置や 正規職員としての配置を



平野支援分会
杉本さん

平野支援学校分会からは、

看護師の賃金の大幅引き上げと、泊行事において外部看護師として校内の非常勤看護師が付き添っている実態を示し、現在の「報酬」では実質賃金の減額になるため勤務実態に見合った額に大幅に引き上げることを求めました。支援教育課は、「『報酬』額について課題認識がある。引き上げを検討している」と前進的な回答がありました。

箕面支援学校分会からは、医療的ケアが高度化・複雑



箕面支援分会
福川さん

求めました。支援教育課は、「引き続き、看護師の標準法定数内配置の義務付けを強く国へ要望する。看護師の業務改善については、各校の実情を聞きながら考えていきたい」と回答しました。

駅のホーム柵設置を鉄道会社に働きかけ、 安全安心な移動の保障を

北視覚支援学校分会からは、特に学校最寄り駅の阪急上新庄駅のホームが狭く、視覚障害のある教職員や子どもにとって大変危険な実態があることを訴えました。



北視覚支援分会
山田さん

東京では官民連携でホームドア設置をすすめていることを紹介し、府教委とし

ても鉄道会社に働きかけていただきたいと訴えました。

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局の つうしん

長女が高校に入学したことが昨日のように感じていたが、その娘が今まさに大学受験真っ只中。もうひと踏ん張り家族全員で応援したい。

今の子どもたちは、インターネット等で検索した学校偏差値の情報を信じ込み、「良い学校」「まあまあな学校」等ランク付けで学校を判断する傾向が強まっていることを娘の高校受験の時に感じた。大学受験も多聞に漏れずその傾向はさらに強まり、受験生はこの学校に行くのかが、あたかも自分自身がランク付けされるかのような強迫観念にかられて過こしており、私が高校生の頃とは比べ物にならない程の厳しい環境の中で生きている。

アラフィフになった今、ありきたりだが、「どこに行くのか」ではなく、「そこで自分が何をやるのか」が大切であるとなえ歳になってつくづく思う。仕事に就いてからは、「学歴」ではなく、何よりも「ひととなり」やなあと実感する。今の娘はまだまだそのような思いにまで至らないが、踏ん張ってがんばり続けてきた時間は、これからの娘の夢に必ずつながる力になる。将来ふと振り返った時に、今の自分をきつと大いに褒めてあげられることだろう。娘と同じく、新たな進学・進路・生活に向かってがんばる皆さんにも、どうかあたたかい春が訪れますように。

蛇足だが、長女の夢は「学校の先生」。同じ道を目指す娘の報告に喜ぶ私の横で小学2年生の次女が「じゃあ、ねえねえも帰る遅くなるやん!」と一言…。次女の目に映る先生像に私自身の働き方を痛感させられた一場面であった(焦)。近い将来、娘と教育談義を交わす日を楽しみに元気で健康に働き続けよう。

「発達がわかれば、こどもが見えてくる③」 ～発達の原動力は子どもの中にある～



熱心に話に聞き入る参加者

大障教連続講座「第3回発達学習会」が、2月15日(土) たちつガーデンにて開催されました。発達について基礎から学ぼうと、連続の発達学習会を企画し、今回は3回目(最終回)でした。講師は、宮本郷子さん(龍谷大学社会学部特任教授・元大阪府内小学校教諭)でした。28名が参加し、ともに学び合いました。

どの子にとっても「楽しい!」と思える学校を

最初に不登校の問題にふれ、今、場所・雰囲気・取り組みなどが不登校の子どもたちが34万人を超え、学校に行きにくくなっていることにふれました。そんな中だからこそ、学校に楽しいものと思えるように楽しい実践を作っていくことが大事であること、子どもは楽しいと脳が活性化され身につけていきやすいことを話されました。そして、子どもの発達を支えるものとして、共感的な子ども理解と発達のな子ども理解の両方が必要だと、安心できる環境(人・)。

光り輝く4歳児になりゆく「自制心」の力

4歳頃の子どもの発達については、自らを励まし、コントロールしようとする「自制心」が育つてくる時期で、親や友だちとぶつかり合いながらも、自分をコントロールする力を持ち始めることについて話されました。

5～6歳頃の子どもの発達の特徴として、「心の中ですじ道を立てて考え、表現する力」が育ってくることで、「中間的な世界」がわかること、視点を自分の外に移す力が育つてくること、変わりゆく自分を感じられるようになってくることなど、わかりやすく説明されました。

表面よりつづき

大障教課別交渉(支援教育課・施設財務課・保健体育課)

「教室不足」解消のため抜本的な支援学校の整備を

四條 曜校分会
門田さん

四條曜校分会からは、「本校化」に向けて350人規模

が示されたが十分な学習環境が保障されるのか、また工事の安全性の確保、通学区区域や校舎整備には現場の教職員はじめ関係者の意見を充分聞くことを求めました。また、センター給食のために新たなアレルギー対応において十分対応できない現状を訴え、改善を求めました。

寝屋川支援学校分会は、児童生徒の急増により不足して

寝屋川支援分会
山岡さん

最後に30分ほど感想や悩み出し合って交流しました。

日頃、子どもたちと関わる中の思いや授業づくりでの悩

いる、トイレや教室のロッカーなど必要な設備の増設、くわえて給食について、必要な食数を提供できるよう給食調理室の改修を求めました。最後に北河内地域に新たな支援学校整備が早急に必要だと強く

守口支援分会
和田さん

訴えました。

守口支援学校分会からは、児童生徒がさらに増え、教室確保や安全確保など、教職員の負担が増大していること、門真市在住の子どもは高等部から寝屋川支援に転学となり負担があること、「設置基準不適合」を解消するため早急な方策の具体化と北河内地域にさらなる新校整備を求めました。

枚方支援学校からは、創立

枚方支援分会
林さん

とができ、感想も多数寄せられ、貴重な学習会となりました。

今後、ともに学び、ともに語り合えるような取り組みを企画していきます。

八尾支援分会
岩崎さん

時は300人規模で建てられ、来年度400人を超える予定で、教室転用や圧縮学級で学習環境が悪化している。「校舎面積不適合」をどう解消していくのか、人数規模の想定など具体的な方策を示すことを求めました。

八尾支援学校分会からは、老朽化したプレハブ校舎を使わざるを得ない実態、天井パネル落下が続くなど危険な老朽化施設の早急な改修を求め、来年度400人を超える予定であることを示し、「教室不足」「教員不足」解消のため、東大阪市に新校整備をおこなうことを求めました。

支援教育課は、「喫緊の課題と認識している。知的障がいと回答しました。寝屋川支援の給食調理室について、保健体育課は、「学校の教育活動に支障がないよう施設・設備の改修に努める」と回答しました。